

※今月のみ受注の書目です。

日本経済 ご担当者さま

グローバルインフレーションの深層



(2023 年 12 月上旬刊行予定)

河野龍太郎 (BNP パリバ証券経済調査本部長、チーフエコノミスト)[著]

四六判上製 / 336 頁 税込予価 1,760 円 ISBN978-4-7664-2934-3 C3033

👉 ココに注目!

- ・「大いなる過熱」のあとに何が起きるのか。
- ・日本はどうすれば停滞トレンドから抜け出せるのか。
- ・人気エコノミストが切れ味鋭く詳説する、金融経済の行方を見通すための渾身の一書!

コロナ禍を機に、急激なインフレが世界を襲った。第一の原因は先進各国の大規模な財政政策であり、第二の原因はインフレを一時的なものと誤認し、中央銀行が利上げに出遅れたことだ。米国の高金利が誘発する超円安は、日本のインフレを助長し、同時に財政インフレリスクも忍び寄る。

この困難な局面を打開してくために何が必要なのか。理論・歴史・政治・国際的視点から、金融経済の行方を鋭利に読み解く、著名エコノミストによる未来を見極めるための作品。

対象 一般 (現代の経済状況に関心の高いビジネスマン)

類書 渡辺努『物価とは何か』(講談社選書メチエ)
渡辺努『世界インフレの謎』(講談社現代新書)

著者既刊

成長の臨界

「飽和資本主義」はどこへ向かうのか

河野龍太郎 著

定価 2,750 円 四六判上製 / 548 頁 ISBN 978-4-7664-2834-6 2022 年 7 月



👉 詳細目次&注文書を裏面に掲載! ぜひご確認ください!

【詳細目次】

第1章 1ドル150円台の超円安が繰り返すのか

超円安時代の到来／1ドル150円台の衝撃／ジャンプした均衡実質為替レート／構造変化の原因を探る／好循環なのか／長期実質円安の実相／実質円高のトレンドが終わったのは1990年代半ば／「世界一物価の高い日本」から「安い日本」へ／長期実質円安の原因

第2章 グローバルインフレの真因

繰り返すショックと中央銀行の誤算／何が過去30年の物価安定をもたらしたのか／三度のショックと誤診／一時的なショックだったのか／システムティック・エラーの中で沈む中央銀行の信認／インフレ期待はアンカーされていたのか／「信認」に頼りすぎた中銀／ r^* の過小評価と高いインフレの許容／ライス論文の日本へのインプリケーション

第3章 グローバルインフレは財政インフレなのか

しつこく高いインフレは、いつでもどこでも財政的現象／2022年のジャクソンホール／財政インフレ論を唱えるビアンキ＝メロージ論文／財政インフレがもたらす金融システムへのストレス／1980年代初頭のグレートインフレーション終息のもう一つの理由／グレートインフレ終息の真の立役者はレーガンか／日本のゼロインフレはグレートインフレの早期克服が遠因

第4章 構造インフレ論、中国日本化論、強欲インフレ

米中新冷戦と構造インフレ論／リベラルな国際秩序の崩壊と構造インフレ論／日本への思わぬ恩恵／デジタル社会の加速と種の限界／中国が直面する日本化（ジャパニフィケーション）問題／グッドハートらの高インフレ再来論／グローバルインフレと逆行する中国の実相／補論・強欲インフレの意外な事実／強欲が原因ではなかった／カンザスシティ連銀論文の詳細／今後の日米欧へのインプリケーション

第5章 日本がアルゼンチンタンゴを踊る日

少子化対策と財源問題／規範に縛られる日本人／異次元の少子化対策の落とし穴／岸田政権下で変質する財政スタンス／国際通貨「円」を保有する日本の公的債務の持続可能性／先進国と新興国の大きなちがい／国際通貨「円」の賞味期限



ご注文は FAX で！ 03－3451－3124



新刊委託	番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
			河野龍太郎 著 グローバルインフレーションの深層 ISBN978-4-7664-2934-3 C3033	1,760 円	★★★★★ ★★★★★ ★★

著者既刊（ぜひ併せてご注文ください！）

返品条件付注文品	番線	ご注文部数	河野龍太郎 著 成長の臨界 －「飽和資本主義」はどこへ向かうのか ISBN978-4-7664-2834-6 3033	定価(税込)
			発行所：慶應義塾大学出版会	2,750 円

★1つで「500部」を表します